

第 1 回高齢者支援部会

〈議 事 録〉

日 時：平成24年8月29日(水)19：55

場 所：市役所庁舎 10階第5B会議室

(会議次第)

1. 開 会
2. 部会長
3. 副部会長選出
4. 会 議
 - (1) 地域密着型サービス施設等の公募状況について
 - (2) その他
5. 閉 会

(委員・専門委員)

○出席(9名)

坂井委員、樋渡委員、笹岡委員、戸出委員、畠山専門委員、濱専門委員、渡辺専門委員、池田専門委員、笹淵専門委員、

(事務局)

○高齢者福祉課：堀田課長、大東総合相談窓口担当課長補佐、金田地域包括支援センター担当課長補佐、松本係長

○介護保険課：相馬課長、服部課長補佐、内藤係長、阿部主任

(議事録)

○事務局

開会に先立ちましてまず始めに、自己紹介をお願いしたいと思います。

各委員・専門委員の自己紹介

本部会の事務局担当職員紹介、①高齢者福祉課②介護保険課

○事務局

ただいまから、第1回帯広市健康生活支援審議会高齢者支援部会を開催させていただきます。本日は委員及び専門委員9名中9名全員の皆様のご出席をいただき、過半数の出席を頂いておりますので、本専門部会は、帯広市健康生活支援審議会条例施行規則第4条第1項の規定により成立しておりますことを報告いたします。

○事務局

次に次第の2、部会長の選出ですが、本日が初めての部会となりますので、部会長選出まで

事務局の方で進行させていただきます。

部会長の選出は帯広市健康生活支援審議会条例施行規則第3条第4項の規定により、委員の中から皆様の選挙により定めるものとされております。どのような方法にいたしましょうか、お計りいたします。

○笹岡委員

指名推薦いかがでしょうか。

○事務局

ただ今、指名推薦のご提案がございましたが、部会長の選出は、指名推薦によるものとしてよろしいでしょうか。

○各委員

同意

○事務局

それでは、笹岡委員より指名推薦をお願いいたします。

○委員

引き続き、坂井委員をお願いしたいと思います。

○事務局

只今、部会長に坂井委員の推薦がございました。他にご推薦はございませんか。

○各委員

推薦なし

○事務局

坂井委員の部会長推薦がありましたので、坂井委員を部会長とさせていただくことにご異議ありませんか。

○各委員

異議なし

○事務局

それでは、部会長は坂井委員に決定いたしました。どうぞ正面の席にお着きいただき、ご挨拶いただいたあと、今後の議事の進行をお願いいたします。どうぞよろしくをお願いいたします。

○部会長

改めまして、よろしくお願いいたします。さきほど米沢市長から平成14年8月から立ち上がった会とのお話がありましたが約10年ほど経過し、その間私も1号被保険者になる年齢になり、身につまされた会としていろいろな話題がでるのではと思います。よろしくお願いいたします。

それでは、次第の2、副部会長の選出です。副部会長は審議会条例施行規則第3条第6項の規定により、部会長が指名ということですので、私から指名させていただきます。副部会長には引き続き樋渡委員にお願いしたいと思います。よろしくお願いいたします。

○委員

よろしくお願いいたします。

○部会長

こちらの席にお着きいただき、ご挨拶をお願いいたします。

○副部会長

私も、平成14年から新任委員としてこの道10年になりますけれども、その間次々といろいろと制度が変わったり、皆さんとご意見交わしながら帯広市民のために力になればいいなと思っていますのでよろしくお願いいたします。

○部会長

それでは、次第の4、会議に入らせていただきます。最初に（1）地域密着型サービス施設等の公募状況について、事務局より説明願います。

○事務局

地域密着型サービス施設等の公募状況についてご報告をいたします。皆様のお手元にはA4縦型の資料とA3の地図の資料が配布されているかと思えます。新任の委員の方につきましては、水色の「第5期高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画」が配布されていると思えます。こちらの計画の中に24年から26年までの高齢者福祉に関する事項、介護保険に関するサービスの量などが示されております。

昨年度来皆様にご協力をいただき策定いたしました「第5期高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画」が、おかげさまでもちまして今年度からスタートしております。策定にあたりましては多くのご意見を賜り、改めて感謝申し上げます。こちらの計画の中には、特定施設入居者生活介護や地域密着型サービスの整備などについて盛り込まれております。このうち地域密着型サービスの施設の選定につきましては、別に組織しております「地域密着型サービス運営委員会」の所管する事項となっております。

本日、この会議で、施設の選定結果についてご報告させていただきますのは、第5期計画におけるサービスの整備に関する進捗状況の報告、ということで、ご報告させていただきます。

まず、資料の1、特定施設入居者生活介護の事業者についての状況ですが、この部分に関し

まして、今年4月から5月末まで公募いたしまして、10社の応募がありました。平成25・26年度それぞれ100床ずつの整備を予定しております。

選定の結果は平成25年度の整備分として、株式会社しらかば、株式会社フジライフが各50床ずつ、平成26年度整備分として株式会社ほくおうサービスが100床の施設を整備するという事で選定されました。

次に2、地域密着型サービスについてですが、小規模多機能型居宅介護、認知症対応型共同生活介護（グループホーム）、地域密着型介護老人福祉施設（定員29人以下の小規模特別養護老人ホーム）について、平成25年度分について川北圏域、西帯広・開西圏域の部分について公募いたしました。表のとおり10社の応募があり、川北圏域においては、小規模多機能と小規模特養の併設施設として社会福祉法人刀圭会が、グループホームについては社会福祉法人あおい福祉会が選定されております。

また、西帯広・開西圏域では、小規模多機能と小規模特養の併設で社会福祉法人普仁会が選定されております。

資料の3番の地域密着型サービスの平成26年度整備分では、一番下の表のとおり、西、広陽・若葉、南圏域でそれぞれの施設の整備について公募する予定であります。

このように、第5期計画における施設等の整備に係る作業は、予定通り順調に進んでおりますことをご報告申し上げます。

○部会長

只今の説明について、ご意見やご質問はございますか。

○部会長

運営母体のしらかば、フジライフという株式会社形式のものは帯広初ですか。それとも札幌とか別のところからのものですか。

○事務局

しらかばさん、フジライフさんにつきましては、もともと帯広市内の事業所です。ほくおうサービスさんにつきましては、本社は札幌ではございますが、この3社は帯広市内或いは十勝管内において特定施設、介護施設としてのサービス実績が充分あるということで、今回の選定に至っております。

○部会長

公募をかける事業者はどの辺まで募集をかけているのですか。

○事務局

選定に当たりましては計画に登載のうえホームページ等で全国的に募集し応募についても認めさせていただいている。

○部会長

全国規模なのですね。

○事務局

ただし、応募の際に選定基準の中で地元での事業実績、職員の確保などといった点数配分で選定に臨ませていただく旨を最初から公開したうえで募集させていただいている。

○委員

毎年、日常圏域ごとの65歳以上の高齢者の割合、要介護者の割合はでていますが、これはそのまま傾向として続いていくのか。10年後の高齢者の割合が変化する予想をたてているのかいらないのかを伺いたい。どこからでもいっちゃいということにはならないので、そのところがはっきりしないと地域密着型では割り振る場所によっては、事業が難しいと考える場合もあるのではと思うが、他の都道府県ではでている所もあるが、そういうところまでは考えなくても良いのでしょうか。

○事務局

平成24年から26年までの第5期計画を策定させていただきました。その中でも圏域毎の数字につきましては、26年度まで推計させていただいております。将来的にも団塊の世代を含めましてほぼ8圏域均等に郡部の川西大正圏域をのぞいては均等に伸びていくことで想定しているところです。具体的には、今現在23年9月末現在で高齢者人口38,000人程度。各圏域については決算数字になりますけども5,000人~6,000人程度を中心に、若干少ないところで3,000人代というところはあるが、その数字をベースに高齢者人口の動向を加味した上で、各々の経費のニーズを延ばした上で、施設整備あるいは見守りの体制について推計させていただけるとご理解いただければあり難いです。

○部会長

例えば大空地区などは、確実に高齢者が多くなっていて、全体の地域でというよりは、その部分だけ特に高齢者が多く、そこら辺の施設整備はまた別のお金が必要になってくるかなと思うが。

○事務局

特定の地域の話ですが、第4期計画の中で大空地区に小規模多機能の建設を公募し、応募していただいた法人もございまして、そういったところにお任せとしている部分もありますし、大空も含めた南圏域について、平成26年に向けて再度小規模特別養護老人ホーム並びに小規模多機能型居宅介護を計画しております。利用者ニーズ、個別の住区の人口規模あるいは施設整備に向けてはそれなりの土地が必要なわけですが、そういった部分に最大限配慮できるような応募があれば更に良い方向にいくのかなと考えている。

○委員

この施設の大空町杜のそらが抜けている？入れてないのでしょうか。

○事務局

既存の施設については全部載っていないかもしれないです。改めて訂正させていただきます。

○委員

今回、小規模多機能と地域密着の老人福祉施設が併設できてきたところが2箇所決まっていると思うんですが、併設にしたほうがより充実したサービスになるとか、単独でやるよりも併設のほうがいいのか何か意向などあるのでしょうか。

○事務局

今回の選定ということで説明させていただきますと、個々の施設ですので、公募の選定に關しましては、おのおの選定させていただくことですのですめております。ただし今まで第4期中整備の話もございますし、今回の公募結果にもあったようにいろんな状態の方が地域で一体的にサービスを使える。又包括的に見ていただくという意味ではやはり併設をしたほうが、お客様にとってもメリットであるという部分が根底にあるという風に考えています。又運営上の小規模多機能型居宅介護の採算性、あるいは小規模特養の採算性という部分でいきますと、小規模多機能の採算性については疑問視する声があります。そういった意味で結果的に併設の方が多いですし、選ばれやすいという結果になっているのかなと感じているところでございます。

○委員

運営の面に関しては、併設したほうが人員の配置ということではあるんですが、果たして一体になってサービス提供してるのか、小規模多機能のサービス使っている人達がどの位の割合で特養のサービスの継続利用につながっていくのか、というところがわからないところでもあるのかと思うので、併設していいとなっても、小規模利用者が必ずしもその特養に入所できているのか、今後リサーチしていかなければいけないところなのかなと感じました。

○委員

本来国が小規模しかだめと決めてしまった話ですから、都道府県市町村でもやむを得ないが、コスト的にいったら、こんな高いものはない。保険を払う立場、報酬を払う立場は帯広市の立場だが、小規模多機能4か所作るなら100人1箇所に作った方がずっとコストが安い。これは変えられないのしょうがない。サービスがそんなに違うかという、ケアをまたいでいく訳ではないので、西から東までも車で20分。地方はそういうもの。地方都市は広域も地域密着も本当はない。どうしても圏域圏域でやっちゃっているが、問題があるがしょうがない。コストの問題はどんどん膨らんでくるので、ばらばらにすると経済の効率が悪くなってくるので結局、介護保険の給付費にはねかえってくるので、できるだけコンパクトにしたほうが、保険財政としてもいいことになってしまうので、なかなかばらばらにできないということになってしまう。

○部会長

グループホームと小規模多機能を付けたのがありましたよね。

○委員

小規模多機能が生活圏域ごとに配置されてきたというのは、ケアマネ連協のスタンスからはケアマネの一人一人にも浸透してきて、この人の住んでいるところの小規模を紹介するという割合はかなり大きくなってきているので、圏域ごとにあるということが浸透してきていると思う。その方たちの生活が圏域の中で暮らせていけることを受ける側としても感じる所です。

○部会長

その他について事務局から何かございますか。

○事務局

ひとつには、本日、皆様にお配りした資料でございますが、「高齢者保健福祉のしおり」と「みんなの介護保険入門」をお配りいたしました。また、新たに委員になられました皆様には、「第五期高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画」もお配りいたしました。

高齢者支援部会におきましては、高齢者の自立した支援に関することについて調査審議いただくこととしております。

また、この計画の策定・評価・見直しに関することについても所掌事務としているところで、この計画は3年おきに見直し策定してきており、今年度は第五期計画の1年目にあたりまして、今後、高齢者支援部会の委員の皆様には計画の評価点検を行っていただく予定をしております。お時間のある時に、これらの資料を参考にご覧いただければと思います。

次回の高齢者支援部会は11月下旬ごろを予定。日程については、部会長、市議会の日程などと調整しまして、皆様に改めてご案内致したいと思っておりますのでその際にはよろしく願いいたします。

○部会長

皆様から何かございますか。他にご意見がなければ終りたいと思いますがよろしいでしょうか。

この顔ぶれでこれから2年間やっていきますので、皆様健康に留意されてなるべく参加いただき、ご意見をいただきたい。以上をもちまして高齢者支援部会をこれで閉会といたします。

お疲れ様でした。